



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三三三号〕

霜降 そうこう
十月二十三日

ひしやく

内宮を囲む山々も秋の粧いとなり、季節の深まりを感じる頃、お伊勢参りの人々も増えてきました。近頃、神社から無くなったものがあります。手水をとる柄杓ひしやくです。伊勢神宮でも手水舎から柄杓が撤去され、なんとなく寂しく感じるのは私だけでしょうか。

お伊勢参りと柄杓は、浅からぬ関わりがあります。

江戸時代、伊勢を目指す旅人は柄杓を携えるようになり、柄杓を持つことはお伊勢参りの目印にもなりました。文政三(一八三〇)年のおかげ参りを描いた「伊勢参宮 宮川渡し」には、旅姿の女性も若者も手に柄杓を持っています。以前、三重県総合博物館の企画展で展示されていた柄杓の柄には、「文政十三年三月十五六日」と日付が墨書きされていました。白木製の丸いわっぱ(曲げ物)に、細長い柄を差し込んだシンプルな作り。おかげ参りの道中、この柄杓で水を飲んだり、ときには施しを受けたりしていたのでしよう。

まだ、別の文献に描かれた「外宮北御門杓積たる図」には、北御門の橋あたりに柄杓が積まれていました。おかげ参りを終えた旅人がここに柄杓を納めていたことがうかがえます。

こうした柄杓は、神仏への供物をヒノキの曲げ物に入れていたことになむともいわれますが、もともとは、「ひさご(瓢箪)」の実を2つに割って使ったために、「ひさご」が転訛てんかして「ひしやく」と呼ばれるようになりました。ひさごの実は、酒器や飲料水の器に利用されていたようです。

市中にふくべを植ゑすまひかな 岩田涼菟

江戸時代の俳人、岩田涼菟は伊勢山田の神職。「ふくべ」は瓢箪のこと、町中にふくべの実がぶら下がる家を詠んでいます。今はひさごの実そのものの道具は少ないようですが、きゅつとくびれたその実は、図柄や器の形に残っています。秋にふさわしい器です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢の匠展～伝統の伊勢みやげ～

伊勢路には歴史の中で育まれ、普段の暮らしに溶け込んだ伝統工芸品が数多く残っています。これらの伝統工芸品ができるまでの過程や職人さんの手仕事に注目して、実演を交えながら作り手とその作品を紹介します。

と き／11月3日(祝・火)～11月15日(日) 10:00～17:00
ところ／【展示・販売】大黒ホール(伊勢路名産味の館2階) ※入場無料
【工作教室】かみしばい広場横

● 展示・販売(予定)

伊勢根付: 中川忠峰／伊勢一刀彫: 岸川行輝／伊勢玩具: 畑井商店／
伊勢春慶: 伊勢春慶の会／伊勢和紙: 大豊和紙工業株式会社／伊勢提灯: 岩田提灯店／
伊勢型紙: 株式会社大杉型紙工業／伊勢木綿: 臼井織布株式会社／
伊勢擬革紙: 擬革紙の会／伊賀くみひも: くみひも平井／伊賀焼: 小島憲二、陽介／
市木もめん: 向井ふとん店／さるはじき: 時計屋なかの／木漆工: 野嶋峰男／
神殿: 株式会社宮忠／鈴鹿墨: 鈴鹿製墨協同組合／竹笛: 伊勢特産玩具製作所／
なすび団扇: 合名会社賀来商店／日永うちわ: 株式会社稲藤／那智黒石: 飯谷梅管堂／
四日市萬古焼: 酔月陶苑／和釘: 久住商店

● 工作教室

3日(祝・火) 伊勢根付/中川忠峰: ペンダントトップ、ストラップ 800円
4日(水) 木工細工/野嶋峰男: 箸づくり 500円、スプーンづくり 700円
5日(木) 伊勢和紙/中北喜亮(大豊和紙工業): 伊勢和紙ハガキに型紙絵付け 500円
6日(金) 伊勢木綿/香袋づくり 700円
7日(土) 伊勢木綿/村上志奈(臼井織布(株)): 伊勢木綿でブローチづくり 660円
7日(土)・8日(日) 伊賀くみひも/組ひも体験 1100円 ※場所/くみひも平井
9日(月)・10日(火) 伊勢玩具/ヨーヨーの絵付け 610円、けん玉、コマの絵付け 各810円
11日(水) 伊勢一刀彫/岸川行輝: 千支彫り 800円
12日(木) さるはじき/時計屋なかの: さるはじきづくり 600円
13日(金) 伊勢根付/中川忠峰: ペンダントトップ、ストラップ 800円
14日(土) 伊勢一刀彫/太田結衣: だるまのキーホルダー 1900円
15日(土) 木工細工/野嶋峰男: 箸づくり 500円、スプーンづくり 700円

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838
※諸事情により、金額や場所・内容に変更が生じる場合がございます。

五十鈴塾

○ 『伊勢神宮ゆかりの国東寺と国東山』

度会町にある国東寺は、その昔聖徳太子が天照大御神の神勅を受けて建立したと伝わる由緒正しいお寺です。

聖武天皇の信仰も篤く、平安鎌倉時代には天台宗の一大道場として国東山の頂上付近に6つの院と132の坊があるほど栄えました。後に戦火や時代の流れで衰退し、寺本体も山上から麓に移され、本堂は大阪四天王寺に移築されました。

幾多の困難を克服して今に続いてきた国東寺のお話を聞き、そのあと国東山に登り山上に残る伽藍の跡を見学します。

国東山の標高は414メートル、山の頂上は伽藍跡から200メートルです。宮川が流れる度会町の眺望を楽しみましょう。また、この山は度会町と玉城町にまたがっていますので、帰りは玉城町の方へ下ります。

弘法温泉やアスピータ玉城もあり、お買い物も楽しんでから帰りましょう。
(山登りにふさわしい服装で、お弁当、飲み物、おやつ等をお持ちください。)

と き／11月4日(水) 9:00～15:00
講 師／土面信順(国東寺住職)
参加費／一般3,500円 会員3,000円(バス代・登山保険料含む)
集合場所／8:55までに五十鈴川駅集合
講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

やま にしき
山の錦

五十鈴川の上流に位置する神路山は、初秋の影を残しつつ、錦おりなす頃となりました。
三色(みいろ)の餡の茶巾しぼりでその美しさを喩(たと)えました。

はつしも
初霜

朝晩の空気が冷たく感じられ、伊勢路にも霜の降り始める時季がめぐってきました。
小豆餡のそぼろ生地で黒糖餡を包み蒸し上げました。
白い氷餅を初霜に見立てた一品です。

かしこじま ゆうば
賢島の夕映え

英虞湾が黄金色に染まる夕映えの賢島。
羊羹とそぼろ餡を交互に流して仕上げ、その一刻を菓子にとどめました。